

私達がここに残していきたいのは、心の流れ、現実の捉え方、考え方、やり方。

仕事の流れはゆかもんに軽く、年表を作ってもらう。それをご覧いただければいい。私たちの時間がいかに短く高速回転だったのか。そしてその速度は、今も全く緩んでいない。表から見えている時間の、何倍もの速さで時間は回転しているけれど、私達はそこで全く疲弊していない。私達が、時間に合わせるといふことをしないからだ。時間の方が私達に寄ってくる。最善最高の形で。私とゆかもんがやっているのは、最善最高でやっていると信じて疑わないことだけだ。

「リアルで初めて会う」

これも、思えば嵐みたいに決まった出来事だった。

私はその頃 二〇二一年三月『まなみとのりこの着物で息抜き』というグループのイベントにスペシャルゲストとして誘われていた。まなみとのりぴーは私達と同じく魔法の夢ノートヴィジョントレーナーで、それぞれが着物に関係するお仕事、経験があり、二人とも大の着物好き。品内、同じく着物好きの方達のために、着物のことを発信するグループを作っている。仲の良い二人だけ、まなみは香川県在住、のりぴーは愛知県在住のためそれまでの全てはオンラインで完結していた。二人はまだ、リアルで会ったことがなかったのだ。

企画されたのは息抜きグループでの初イベント。しかも初リアル。場所は香川と愛知の真ん中という理由で大阪。大阪で、同じモデルを使っているまなみとのりぴーのコーディネート対決という内容で、私は、晴れてスペシャルゲスト兼モデルという大役を仰せつかったのである。

同時期に私は、生まれて初めての自分のプロフィール撮影を控えていた。相方ゆかもんが神戸の実家に帰省の際に、撮影してくれることになった。

着物モデルのドキドキと、プロフィール撮影のドキドキ。まなみとのりぴーに初めて会うドキドキと、ゆかもんに初めて会うドキドキ。そして、どちらも時期は一緒（わずかに二日違い）。

時期は一緒？・・・なら、着物で撮影してほしいし、着物イベント、ゆかもんも一緒の方が、もっと楽しいよね。

実は私は、ずいぶん前からこのことに気づいていた。でも、言い出せなかった。それはなぜか。

着物イベントで撮影してもらうということは、イコールお金がかかるということ。自分の撮影分の金額は知っていたけど、イベントで一日撮ってもらうとなったら、一体いくらになるのだろうか？そしてさらに、ゆかもんのスケジュールは？神戸帰省の際に、他の方の撮影も入っていることを知っていた。そして、ゆかもんには小さいお子さんもある。

なんとなく頭だけで考えていっばいになって、その頃の私は、なかなか言い出せなかったのだ（今だったら考えられないことです笑）。

日にちはどんどん近づいてくる。このまま私が言い出さなければ、まなみとのりぴー、そしてゆかもんは、今回は交わることはなく終わっていく。交わらなければ交わらない点だけど、交わったらきっと、最高に楽しいイベントになるだろう。この点を今、結べるとしたらそれって、私にしかできないこと。

頭の中いっばいに広がったモヤモヤ。だけどもある日、そのモヤモヤを大きく大きく超えて、私は「着物姿を撮影して欲しいな。せつかく近くにいるのだから、ゆかもんも一緒にいいな。」と、心から思う。

望みを投げてみればいいのだ。あの三人に。投げてから考えればいいのだ。このワクワクが私だけの小さな望みじゃないのなら、きつとうまく行く。メンバーは全員、私の大好きな人ばかり。そ

して、ワクワクするのが得意で、ワクワク探しのプロフィールセッション。私たちは全員、魔法の夢ノートヴィジョントレーナーなのだから。

私が投げ放った望みは、その後どうなったのか。この日の私達の表情を見て欲しい。





当時の私がオズオズと出したその望みは、三人のヴィジョントレーナーによって瞬く間に膨らんで、彩られて行った。そしてそれに合わせるように、現実がパチパチとパズルみたいにハマっていった。なんと、ゆかもんの帰省のタイミングまで、用意されていたかのように上手いことずれていた。

悩む必要なんて、本当はなかったのだ。全てが上手いくように、初めから用意されていた。お金も、時間も、距離もタイミングも、お子さんの預け先も、全て、なんの問題もなくパチパチと決まっていた。

「きつと楽しい。」その気持ちの大きさに比べたら、問題は問題ですらなかった。問題だと思っていたのは、私だけだったのだ。笑

本当に望むなら。そしてそれが「ただ、楽しそう!」と、ワクワクの純度が高ければ高いほど、現実の方がスムーズに寄ってくる。

会いたい。一緒の方が楽しい。写真を撮ってもらいたい。楽しいイベントにしたい。

私もゆかもんも、まなみんものりぴーも、それだけを考えていた数日間だった。

「ワクワクすること。」魔法の夢ノートで散々言われて来たことが初めて、瞬に落ちた一日だった。

ゆかもんと再会したのは、着物グループのイベントの翌々日。

いよいよ、私のプロフィール撮影である。



ちよつと緊張していた。なんせ、自分の写真を撮ってもらうのは初めての出来事だったのだ。

プロフィール写真の撮影とはまた別に、私にはちよつとした望みがあった。

それは「コンビ写真を撮ること」。

「お笑いコンビの宣材写真みたいな撮りたい。」撮影が決まってすぐに湧いて来た望みを、私は素直にゆかもんに投げていた。

返事はもちろん決まっていた。

「いいよ。やろうやろう。とみちゃんが望むことを全部叶える撮影にしよう。」

ゆかもんは絶対、そうとしか言わない。

今なら、分かる。そうなんだ。無理だとか、それはどうかとか、時間が・・とか、〇〇が足りないかもとか、絶対にゆかもんは言わない。

それは、そうした方が上手くいくとか、そうした方が気分が上がるかと思うてやっていてるのではない。